



# 2 未利用資源を活用した有機肥料の開発利用促進 事業費（東予）

令和6年度当初予算（案）  
予算額 1,434千円

国際情勢の影響を受けやすく、地力低下の要因にもなる化学肥料に依存した農業からの脱却を図るため、東予地域の未利用資源である「鶏糞」「食品残渣」「下水汚泥」を原料とした有機肥料の開発、利用を促進し、持続可能な農業生産モデルを構築することで、国が進める「みどりの食料システム戦略」に掲げる化学肥料の低減を目指す。

お問い合わせ先  
東予地方局農林水産振興部  
農業振興課  
(0898-68-7322)

指標

指標	施策	17 農林水産業の生産振興	現状値	1,226億円 (R2年)
	KGI	農業産出額	目標値	1,200億円 (R8年)
指標	細施策	17-4 農業の生産振興	現状値	316千t (R4年度)
	KGI	主な農産物の生産量（各振興計画に記載のある主要品目）	目標値	338千t (R8年度)

## 事業イメージ

**KPI** 開発有機肥料の導入面積  
(R12化学肥料20%低減を目指した面積)

現状値 -  
目標値 250ha (R8年度)

化学肥料の価格高騰・地力の低下



有機肥料の導入が求められるが、市販の有機肥料は

- 化学肥料よりも価格が高い
- 肥効時期が分かりづらい

未利用資源の活用による安価な有機肥料開発【R6-7】



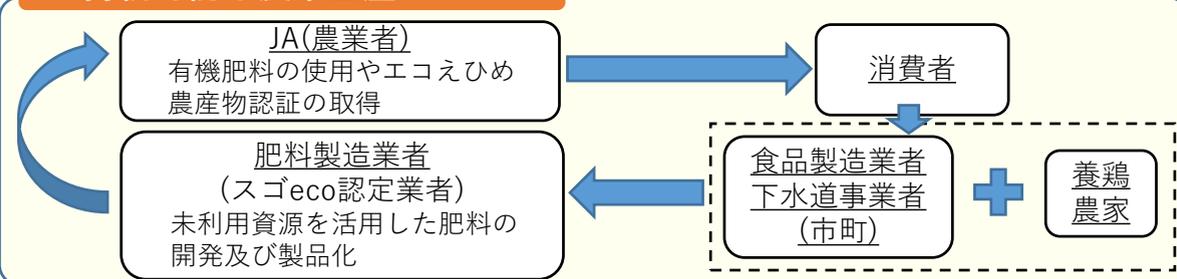
\* 鶏糞：農繁期以外は鶏糞堆肥供給過多

普及に向けた現地実証・導入推進（JA主導）【R7-8】

※R9年度の肥料はR8年度に予約注文する

持続可能な農業生産モデル構築による化学肥料の低減

### < 持続可能な農業生産モデル >



## 事業概要

【資源循環促進基金充当事業】

- 1 有機肥料利用促進協議会 348千円**  
【構成：県、養鶏農家、食品製造業者、下水道事業者、肥料製造業者、JA等】  
(1) 会議の開催（年3回、うち2回は外部アドバイザー招聘）  
肥料開発方針検討、資源マッチング、下水汚泥の安全性確保の検討  
(2) 先進事例調査研修（佐賀市）  
下水汚泥の肥料化と推進方策、ブランド名を活用した農産物販売の取り組み
- 2 未利用資源の活用に向けた推進 405千円**  
(1) 未利用資源の成分分析  
有機肥料の原料とする鶏糞や食品残渣に含まれる肥料成分の分析（6点）  
(2) 有機肥料普及推進シンポジウムの開催  
生産者を対象に、有識者や篤農家を講師に招き、有機肥料導入の機運を醸成（丹原文化会館、予定200人）
- 3 未利用資源を活用した有機肥料の試作 681千円**  
(1) 最適な原料配合による有機肥料の試作  
米麦、さといも、きゅうりに適した3種類の有機肥料の試作とその肥料成分及び重金属含有量の分析（試作数量2,780kg（R7実証面積110a相当））  
(2) 有機肥料PRチラシの作成  
生産者を対象に、試作肥料や有機肥料導入に関する施策の紹介チラシを500部配布し、JAと連携して導入を推進

< 事業期間：令和6～8年度（3年間） >